

ターンテーブルアキュライザーの活用(5)
－音楽ジャンル－

1. 始めに

前報(4)までは音源としてはクラシックについて、演奏家の解釈や技量の把握に焦点をあてて試聴してきましたが、今回、クラシック以外の音楽ジャンルでのターンテーブルアキュライザーTACU-1の効果の確認をいたします。

2. ターンテーブルアキュライザーTACU-1の試聴方法

使用するプレイヤーはThorenTD124とし、TACU-1有無で比較していきます。

今回試聴する音源は以下のとおりです。それらの選択は音楽そのものの造詣には深くないので、何らかのかたちで生音に触れたことのあるものから選んでみました。

Atlantic P-5177-8A 【Columbia、逆相、第4時定数 High】

Last Concert

MJQ

ミノルフォン KC 55-56 【TELDEC、逆相、第4時定数 High】

新心の歌

田畑義夫

CBS SONY 29AP 46 【Columbia、逆相、第4時定数 High】

トリオロスパンチョス

DECCA DL 74708 【DECCA、逆相、第4時定数 High】

The Dukes of Dixieland

FANTASY S10054 【Columbia、逆相、第4時定数 High】

Fire House Five Plus Two

CBS SONY 25AG 407 【Columbia、逆相、第4時定数 Low】

高橋竹山 1978

Last Concert は、こういったジャズは米国出張時いくつかのジャズスポットで聴いていますし、ヴィブラフォンの音は、地元のホールの至近距離で聴いています。

田畑義夫は、バックに琴、三絃、尺八の入ったものがあり、最近地元のホールの伝統音楽祭でこれらの楽器を聴いており、尺八は山本邦山の演奏を聴いています。

トリオロスパンチョスは、グループは違いますが、米国出張時ロスアンジェルスのもメキシコ料理店で同じような3人組の演奏を聴いています。

Dixieland Jazz は米国出張時ニューオルリーonzでいくつかのバンドを聴いています。

津軽三味線は東北のイベントで太棹の音を聴いています。

大分前のこともあって頼りないところもありますが、記憶を頼りながら聴いていきました。

3. ターンテーブルアキュライザーTACU-1の試聴結果

再生時には、上記のアナログプレイヤーにTACU-1をセットし、ZANDEN Model 120の設定は、ZANDENのリストを参考に上記の【 】に示した条件で試聴していきました。

上記のような音楽ジャンルの曲や演奏について詳しくないので、記憶をたどりながら、もっぱら音の変化を確認することにしました。

Last Concertは、いかにもクリーンなジャズという感じですが、TACU-1を外しますと、ヴィブラフォンの余韻がぼやけますし、ベースの弾みが緩んできます。

田畑義夫は、田畑義夫の歌唱ではなく、大利根月夜のバックの琴、三味線、尺八の音を聴いていきましたが、極めてリアルです。TACU-1を外しますと、琴と三味線の立ち上がりが鈍り、尺八の息を吹き込む音が後退します。

トリオロスパンチョスは、メキシコ料理店のグループでテーブルのところまで来てくれてドル札を渡してオーダーで歌ってもらったのですが、そういった生々しい雰囲気感が蘇ってきます。TACU-1を外しますと、ギターの音の焦点がぼやけ、ボーカルのハモリが濁ります。

ディキシーランドジャズは、これもニューオルリーズでいくつかのバンドを至近距離で聴いたものですが、ディキシーランドのバンジョーやチューバベースやソプラノサクソフーンやホルネットなどを含めて個々の質感がリアルです。TACU-1を外しますと、個々の質感が後退し喧噪さが表に出てきます。

高橋竹山は、高域の艶のある音と太棹の豪快な響きが特徴的ですが、TACU-1を外しますと、音の焦点がぼやけて雑味がでてきます。

4. まとめ

音楽ジャンルを替えてもTACU-1の適用により、TACU-1による音の変化を確認することができました。

以上